

介護等体験の在り方について

戸 田 浩 暢*

(2016年1月15日 受理)

Ways to Deal with Nursing Care Experiences Program

Hironobu TODA*

We conducted a survey on attitudes of our students toward “Nursing Care Experiences” program of our university (including prior guidance and internship at special support schools). Respondents selected multiple responses consisting of “Meaningful” and “Meaningless,” and described their responses freely. The survey shows that almost all the students selected “Meaningful,” and the free descriptive answers also show that most students think “The lectures are concrete and instructive.” We would like to have closer cooperation with lecturers so that we can offer more detailed information to students.

Keywords: Nursing Care Experiences 介護等体験, Prior Guidance for Internship 事前指導, Special Support School 特別支援学校

1. はじめに

本学では、教員免許を取得できる学部・学科を有する他大学と同様に、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」等（平成9年法律第90号）により、小学校及び中学校教諭の一種免許状を取得する場合、特別支援学校及び社会福祉施設等において介護等体験を行うこととしている。この科目の目的は、特別支援学校及び社会福祉施設等において、介護等の体験実習を行い、様々な人の生き方や生活のありように気づくと共に、人と関わり、人を支援する上で大切にすべき視点や姿勢・態度を養うことである。介護等体験の期間は、特別支援学校の2日間及び社会福祉施設等での連続した5日間であるが、事前指導を8回、事後指導を1回実施している。

事前指導においては、ほぼ毎回、授業の感想を提出させ、事後指導においては、介護等体験で学んだことを書かせ、授業形態を含めて授業の改善に努めているが、全体的な授業の在り方に関しての分析や考察が不十分であると考えている。

本稿では、本学が実施している介護等体験の事前指導を含めた授業に関して、学生の意識調査の記号選択・自由記述アンケートを行い、今後の授業への改善策を考察したい。

2. 本研究の目的と方法

本研究の目的は、本学が実施している介護等体験の事前指導の授業及び特別支援学校における観

* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

察実習に関して、学生が有意義に考えているかどうかの意識調査（記号選択・自由記述）についてアンケートを実施し、その結果を分析して、今後の介護等体験の事前導を含めた授業の在り方に関して改善策を考察することにある。

研究の方法としては、次の表1「介護等体験の事前指導の意識調査」に示した質問のアンケート（4段階評価—①：非常にそう思う，②：ややそう思う，③：あまりそう思わない，④：全くそう思わない—）と理由の自由記述を、介護等体験の事後指導（2015年10月3日）で実施し、得られたデータを分析していく。アンケートに回答した人数は50名である。

表1 介護等体験の事前指導の意識調査

	質 問 事 項
1	介護等体験者である先輩の講話は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？
2	介護等体験合同事前指導の講話は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？
3	「高齢者福祉施設の概要」の講話は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？
4	「視覚障害及び特別支援学校」の講話は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？
5	「聴覚障害及び特別支援学校」の講話は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？
6	「知的障害者福祉の概要」の講話は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？
7	介護等体験（特別支援学校）の実際の実習は有意義でしたか？なぜ，そう考えましたか？

なお、本年度に行った介護等体験の事前・事後指導の内容を表2に纏めて示す。

表2 介護等体験の事前・事後指導の内容

	月 日	テ ー マ	内 容
1	4月11日	オリエンテーション	介護等体験の実施に伴うスケジュール，内容，目的，留意事項等に関する説明を行う。
2	4月18日	介護等体験の意義と目的	介護等体験の意義を理解するとともに，体験を通じてどのようなことを体得し，それをいかに教職に生かすべきかについて考える。
3	5月9日	介護等体験合同事前指導	障害についての理解を深めるとともに，特別支援学校における教育の目的と体験の意義について考える。
4	5月16日	高齢者福祉施設の概要と体験の目的	障害者・高齢者福祉施設の概要，および施設サービスのあり方を理解し，体験にあたっての目的や心得について学ぶ。
5	5月23日	特別支援学校の概要と体験の目的①	視覚障害についての理解を深めるとともに，学校における教育の目的と体験の意義について考える。
6	6月6日	特別支援学校の概要と体験の目的②	聴覚障害についての理解を深めるとともに，学校における教育の目的と体験の意義について考える。
7	6月13日	障害者福祉施設の概要と体験の目的	知的障害者福祉施設について理解するとともに，施設体験にあたっての目的や心得について学ぶ。

8	6月20日	介護等体験の実施について	介護等体験に臨むにあたり、具体的留意点について学ぶ。
9	10月3日	介護等体験の事後指導①	介護等体験についての反省会（集団討論、個人面接）を行う。

* 第9回の事後指導①は9月末までの体験修了者が対象であり、10月以降の体験修了者は、2016年1月9日に同じ内容を「介護等体験の事後指導②」として実施予定。

3. 介護等体験の事前指導の意識調査に係るアンケートの分析

この節では、介護等体験の事前指導の意識調査に係るアンケートの項目に従って、特徴的な自由記述も取り上げながら、学生の受講意識の分析を行っていく。

表3は、「介護等体験者である先輩の講話は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常にそう思う」が36名で72%、「②ややそう思う」が13名で26%と、1名を除き、ほぼ全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「体験に関して、教科書や先生方の講話から理解することはできるが、実習の中身は実習に実際に行かれた先輩方のお話が最も参考になった。学生の視点で伝えて頂いた注意点が、実習中に役に立った。」、「初めて行く学校や施設であるため不安がたくさんあり、そのことを直接先輩方にお聴きできて不安が解消されたからです。」といった、先輩からの直接体験の詳細な話に多くの気付きがあったという記述が多く見られ、肯定的な記述がほとんどであった。一方、「自分の実習先が確定していなかったためイメージしにくかった。」、「簡単な資料がそれぞれの施設ごとにあればメモしやすく復習にもなったと思います。」という授業改善に繋がる記述も見られた。

表3 介護等体験者である先輩の講話

①	36名 (72%)	②	13名 (26%)	③	1名 (2%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	-----------	---	---------	---	---------

表4は、「介護等体験合同事前指導の講話は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常にそう思う」が41名で82%、「②ややそう思う」が9名で18%と、全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「特別支援学校とはどのような目的でつくられたのか、どのような教育が行われているのかを知り、漠然としていた特別支援学校という存在が身近に感じられるようになったから。」、「実習での施設の方や利用者の方に対する態度を改めて意識したり、障害者の方と共生する社会を実現するため、一人ひとりの意識と教員の専門性と人間性がいかに大切か学べたから。」といった、特別支援教育の概要や特別支援教育の在り方についての学びができたことを取り上げる記述が多く見られ、全て肯定的な記述であった。

表4 介護等体験合同事前指導の講話

①	41名 (82%)	②	9名 (18%)	③	0名 (0%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	----------	---	---------	---	---------

表5は、「高齢者福祉施設の概要の講話は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常に

そう思う」が34名で68%,「②ややそう思う」が16名で32%と、全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「施設の職員にただでさえ迷惑な実習なのに、態度やマナーが悪いと余計に迷惑になるという話を聴いて、改めて実習態度に気を付けようと、気を引き締めることができたから.」,「高齢者福祉施設の現状を詳しく知ることができたからです。実際に実習に行ったとき、コミュニケーション能力が求められることから、『雑談力』を日頃からどのように身に付けるか真剣に考えさせられました。」といった、実習に行った際に求められる事柄について深く学べ、更には日常生活で気を付けておくべきことに関する記述が多く見られ、全て肯定的な記述であった。

表5 「高齢者福祉施設の概要」の講話

①	34名 (68%)	②	16名 (32%)	③	0名 (0%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	-----------	---	---------	---	---------

表6は、「視覚障害及び特別支援学校の講話は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常にそう思う」が44名で88%,「②ややそう思う」が6名で12%と、全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「視覚障害と一言で言えても、その内容・程度は様々であり、実際に少しではありますが見え方を体験することができたため。また、学校でどのように教えているのか、具体的にどのように支援しているか知ることができたため.」,「ほとんど視覚障害についての知識が皆無だったので、新しい知識を身に付けることができてとても参考になった。介護等体験にかかわらず、日常生活でも必要なことだと思った。」といった、視覚障害そのものや特別支援学校での教育の中身を具体的に知ることができたことに関する記述が多く見られ、全て肯定的な記述であった。

表6 「視覚障害及び特別支援学校」の講話

①	44名 (88%)	②	6名 (12%)	③	0名 (0%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	----------	---	---------	---	---------

表7は、「聴覚障害及び特別支援学校の講話は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常にそう思う」が44名で88%,「②ややそう思う」が6名で12%と、全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「聴覚障害の児童・生徒の話を聞き、教育の中身を知ることができると共に、口から発する言葉だけがコミュニケーションの手段ではないと強く感じることができたから。また、聴覚障害の方々の社会進出の大変さについても知ることができた.」,「聴覚障害の人たちとコミュニケーションをどのように取れば良いか分かった。コミュニケーションの取り方には様々なバリエーションがあると分かった。」といった、聴覚障害そのものを知ることができたことや、支援の在り方、コミュニケーションの在り方を考えさせられたという記述が多く見られ、全て肯定的な記述であった。

表7 「聴覚障害及び特別支援学校」の講話

①	44名 (88%)	②	6名 (12%)	③	0名 (0%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	----------	---	---------	---	---------

表8は、「知的障害者福祉の概要の講話は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常にそう思う」が43名で86%、「②ややそう思う」が7名で14%と、全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「知的障害とは何なのか、障害がある人がどのようにして社会に出て生きて行くのか、そのためには何が必要で何を支援する必要があるのかということや、課題となっていることについて具体的に知ることができたため.」,「一般的によく『失敗は成功のもと』と言うが、講師の先生は『成功は成功のもとになるが、失敗は失敗のもとになる』と言われて驚きました。障害の特徴と個人の能力や要望を意識して接する必要があると考えた。また、自分自身がこれからどのような姿勢で行動すべきか考える切っ掛けになったから.」といった、知的障害に関わる具体的で様々なことを学ぶことができたことや、日常生活における自分自身の在り方に関する記述が多く見られ、全て肯定的な記述であった。

表8 「知的障害者福祉の概要」の講話

①	43名 (86%)	②	7名 (14%)	③	0名 (0%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	----------	---	---------	---	---------

表9は、「介護等体験（特別支援学校）の実際の実習は有意義でしたか？」に対する回答であるが、「①非常にそう思う」が44名で88%、「②ややそう思う」が5名で10%と、1名を除き、ほぼ全員が有意義に感じていることが分かる。

自由記述では、「自分が教師になったとき、いろいろな個性の生徒と向き合うので、特別支援学校での実習は教育者としての目線で受けることができたので深い学びができた.」,「知的障害のある生徒で、社会に出る前の高校3年生のクラスに入ったため、事前指導で聞いた課題や生きていくために何をすべきかという面から教育とは何かを深く考え、障害と個性の境界の判断について初めて気付くことがたくさんあり、大変勉強になった.」といった、事前学習に基づいた深い学びができたという記述が多く見られ、肯定的な記述がほとんどであった。一方、「大変貴重な体験だったと感じているが、先生方があまりにもお忙しくされているため、気付きや疑問について質問することは極めて難しかった。また、接した生徒さんから多くのことを学ばせて頂いたが、コミュニケーションは充分に取ることができなかった.」,「学校内の見学や講義は有意義だったが、実際に生徒と関わる時間が短かったので、実習に行った感じにはならなかった.」といった、実習形態に関わる記述が見られ、改善策を考える必要がある。ただ一人、「③あまりそう思わない」を選択した学生は、「あまりにも自分が知識足らずで、学びたいことまで学べなかった.」と記述しており、自分自身の介護等体験へ取り組む姿勢を含めて反省をしていた。

表9 介護等体験（特別支援学校）の実際の実習

①	44名 (88%)	②	5名 (10%)	③	1名 (2%)	④	0名 (0%)
---	-----------	---	----------	---	---------	---	---------

4. おわりに

前節では、介護等体験の事前指導の意識調査に係るアンケートの項目に従って、特徴的な自由記述も取り上げながら、学生の受講意識の分析を行った。本節では、その分析に係る考察を行う。

表3及び自由記述から、1名を除き、ほぼ全員が授業は有意義であると考えていることが分かった。これは、介護等体験という初めての実習に対してほとんどの学生が不安感を抱いている中で、実際に介護等体験に参加した先輩から、様々な情報を得ることによって、不安感がある程度払拭されたことによるものと考えられる。若干名が、具体的なイメージが湧きにくい等の意見を記述していたので、特別支援学校や社会福祉施設等の概要を記した簡単な資料を用意する必要があると考えられる。表4及び自由記述から、全員が授業は有意義であると考えていることが分かった。これは、特別支援教育の概要や特別支援教育の在り方に関して、本学においても講義を受けているが、実際の特別支援学校の校長先生から講話を聴くことで、より理解が深まったためと考えられる。表5及び自由記述から、全員が授業は有意義であると考えていることが分かった。これは、講話をされた高齢者福祉施設の施設長から、非常に詳細で具体的に実際の実習で気を付けておくべきことや配慮すべきこと、事前に心掛けておくべきこと等を聴くことで有意義であると捉えたと考えられる。表6及び自由記述から、全員が有意義であると考えていることが分かった。これは、視覚障害に係る特別支援学校のベテラン教員から、視覚障害そのものや特別支援学校での教育の中身を具体的に知ることができたためであると考えられる。表7及び自由記述から、全員が有意義であると考えていることが分かった。これは、聴覚障害に係る特別支援学校に専門家として長年勤務された教員から、聴覚障害そのものや支援の在り方、コミュニケーションの在り方について講話を聴き、理解が深まったためと考えられる。表8及び自由記述から、全員が有意義であると考えていることが分かった。これは、知的障害者福祉施設の施設長から、知的障害に関わる具体的な様々なことを学ぶことができたことや、日常生活における自分自身の在り方を考えさせられたことが要因として考えられる。表9及び自由記述から、1名を除き、ほぼ全員が有意義であると考えていることが分かった。これは、事前学習で学んだことに関して、実際に自分で体験することにより学びが深まったことや、日頃体験することができないことを直接体験することができたためと考えられる。

全体的に見た場合、本学で実施している介護等体験の事前指導の授業及び実際の特別支援学校における実習に関して、ほとんど全員が有意義と考えていることが分かったが、今後の授業改善に関しては次の3点が考えられる。

1点目は、今までも講話者から詳細で具体的な話を聴くことができていたが、より質の高い授業内容にするために、事前に学生から特に聴きたい内容に関して調査し、講話者と連携を深めていくことである。2点目は、実際の実習において教員や児童・生徒と関わる時間が少ないといった授業形態に関して、事前に十分周知しておき、観察すべきことや学ぶべきことを焦点化していくことである。3点目は、実習に参加することへの積極性を涵養し、十分な知識を自ら学び取ろうとする姿勢を身に付けさせることである。そのためには、1年生からの教職課程の授業である「教職論」から、実習に行くことの意味を深く考えさせることが重要である。